

四万十町のアクションプラン（芽出し）の動きについて

(9/1 高幡地域アクションプランフォローアップ会議資料)

大正駐在地域支援企画員 浦宗

項目	桧の間伐集成材を使った地産外商ビジネス
事業主体	大正町森林組合集成材工場・四万十町（協議中）
関係市町村	四万十町
事業の概要	四万十桧の集成材を活用した新加工商品による販路拡大を実施し、東京都森林組合などと連携して首都圏を中心とした販売網を拡充する。
主な内容 (H22～ H23 度)	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十桧の集成材の新商品開発 ●企業との共同開発やデザイン、マーケティングなどの企画力強化 ●コクヨなどの企業や東京都森林組合との連携強化による県外販売のネットワーク基盤の整備及びシステムの構築 ●県外への出荷など運搬体制の確立（地域内システムの構築）
備考 (今までの取 り組み)	<p>○集成材を利用した新商品の開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集成材板販売の受注減少により、素材販売から付加価値をつけた加工品販売中心へと移行している。 ・2006年には間伐材の利用促進を中心とした森林整備を進める「コクヨー四万十・結の森プロジェクト」を開始し、森林管理、商材開発、情報発信の3つの活動を実施している。これによって、コクヨとの連携を強化してきた。コクヨとの協定締結をもとに2008年までに計1068.95haの結の森を設置し、間伐材に付加価値を付けるためFSC国際森林認証も取得している。 ・オフィス家具、建材を製造・販売を行う（株）コクヨファニチャー、通信販売カウネット（桧間伐材卓上事務用品）、他企業等のメーカー商品等の開発を行い、これらの売り上げが順調である。しかし、短い納期に対応するため、多くの商品の加工を県外業者に委託しているに状況にある。 <p>⇒ 企業の規格にあわせた商品づくりを全て自社でまかなえること、また自社オリジナル商品開発を進めていくためには、デザイン・加工技術をもった人材育成、研究開発費の確保が必要である。</p> <p>○首都圏を中心とした県外への販路開拓のための営業強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在東京都森林組合等との業務提携に向け協議中。既に東京都森林組合との連携によりハウスメーカー等への販路開拓に取り組んでいるが、その他の地域では、兵庫・岡山・大阪の木材市場、大手建材店などにも新規販路を開拓した。 ・現在、京都議定書やカーボンオフセットなどの考えが企業に広がり、商品販売の追い風が吹いている <p>⇒ 営業販売強化のための人材・費用の確保、外商用の運搬トラックの確保が必要となる。また、将来的には都内での大正町森林組合展示場の設置も視野に入れている。</p>

四万十町のアクションプラン（芽出し）の動きについて

(9/1 高幡地域アクションプランフォローアップ会議資料)

十和駐在地域支援企画員 市川

項目	有機野菜を使った加工品の開発・販売
事業主体	桐島畑
関係町村	四万十町
事業の概要	四万十町の有機野菜を使った加工品の開発及び県内外への販売拡大等による地場産業の育成
主な内容 (H22度)	<ul style="list-style-type: none"> ●有機野菜の加工商品ジンジャーシロップの生産拡大 ●有機野菜（B級品等）を有用活用した新しい加工品の開発 ●有機野菜の生産及び直接販売路の拡大 ●有機野菜及び加工品の生産拡大による地元雇用の確保 ●遊休農地の活用促進 ●有機栽培・加工の研修・実習生の受け入れによる後継者の育成 ●県内外への加工品の販売促進活動の推進
備考 (今までの取 り組み)	<p>◆現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桐島畑では、有機栽培により育てた四万十町十和地区の野菜と山や川の食材を直接販売している。 ・生姜で作った加工品ジンジャーシロップは道の駅等の加工場を借りて、月に500本ペースで生産し、道の駅やスーパーなどの量販店のほか県内外に販売しているが、需用に対応できていない状況である。 ・有機野菜のB級品を活用した加工品として、野菜を使ったケーキや調味料などを商品化しているが、現在は少量しか生産できない状況である。 ・有機野菜を普及促進させるため、地域内での同志に栽培管理の指導を実施しており、1ターンの研修生も受け入れている。 ・地区内に増加しつつある遊休農地を積極的に活用し、有機栽培の促進を図っている。 <p>◆事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桐島畑では、消費者の食に対する安心安全志向が進む中、四万十の自然の恵みと有機栽培という価値に着目し、有機野菜という価値を最大限に活用した加工品の開発や外商による販売拡大をしようとしている。 ・こうした取り組みを促進することで、地域の所得向上や雇用の確保、後継者の育成、優良農地の保全などにつなげようとしている。 <p>◆補助金導入（予定）の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○取引先からの需要に対応するための生産加工設備の設置費用 ○商品化に向けた総合的なデザイン・加工技術の確立など開発費 ○有機野菜の高付加価値化及び販売促進のための広告費用 など

地域アクションプランへの追加を検討している取組について

No.	市町村名	団体名	相談内容	
			分野	件名
1	四万十町	個人	海産物生産	熱帯性海藻キリンサイの活用について
2	須崎市	任意団体	水産加工物 製造・販売	「お魚工房みなみ丸」の水産加工の取組みについて
3	津野町	株式会社	ペレット燃料 施設	津野町にペレット工場を建設することへの助成について
4	四万十町	公益法人	木材の販売	集成材の販路拡大について
5	須崎市	個人	里山体験観光	温泉を核とした里山体験観光の開発について
6	四万十町	任意団体	農産加工物 製造・販売	農産物加工販売による地産外商戦略について